

公益財団法人 下中記念財団  
上野眞資記念 在日インド留学生支援  
「日本を知ろう」事業

## 2018 年度公募要領 (同じ内容の英文もあります)

【[The application guideline in English](#) ⇨】

応募締切は 2018 年 6 月 20 日 (水)

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 2-7 伊東ハイム 301  
(2018 年 7 月 1 日から 202 号室に移転)

電話番号 : 03-5261-5688 FAX 番号 : 03-3266-0352

URL : <http://www.shimonaka.or.jp/>

e-mail : [info@shimonaka.or.jp](mailto:info@shimonaka.or.jp)

### 事業の概要 :

この事業は、日本で学ぶインド留学生が日本の文化や社会、科学、技術、自然や習慣などをよく知るための活動を助成するものである。地方を旅して地元の人々と交流する、野鳥を観察する、美術館や寺や神社、日本庭園を訪ねる、歌舞伎や能を観る、科学や技術の研究所を訪問する、茶の湯のレッスンを受ける等々の他、応募者が興味のある分野で日本での経験を豊かにする活動を歓迎する。

優れた計画書を提出した学生数名には活動の資金を提供し、日本語の要約をつけて英語で活動報告を提出してもらおう。優秀者は表彰し、活動報告は財団の「年報」とホームページで公開する。

### 活動資金

調査・研究に必要な経費 15 万円以内が財団から提供される。

### 誰が申請できるか？

インドから日本の大学 (大学院を含む) に留学している学生で、日本語で活動できる者。ただし、日本の大学における留学期間が 2019 年 3 月末日以前に終了しない者。すでにこの事業で表彰されたものも申請できる。

### 応募手続き :

所定の申請書・計画書を下中記念財団のホームページからダウンロードして記入する。

- (1) 申請書 : 申請書には経費計画を記すスペースが設けられている。予定している活動資金案を具体的に書くこと。上限は 15 万円である。
- (2) 計画書 : 予定している活動の具体案を、①1000 語程度の英語で書き、日本語の 300 ~ 500 字の要約をつけるか、②2000 字程度の日本語で書く。
- (3) 大学の在学証明書 (コピー不可。各所属機関から早めに取得すること)。

(1)と(2)は電子メールに添付して財団事務局に提出し、(3)は締め切り日までに届くよう郵送すること。

### 応募締め切り:

2018 年 6 月 20 日 (水曜日) 17 時  
(郵送の在学証明書も含めて必着)

## 選考：

- (1) 提出書類を審査して第一次審査合格者5名以内を選び、2018年6月末までに合格者に通知する。第一次審査合格者に対し7月8日（日曜日）か7月15日（日曜日）に東京で、主として日本語による面接をおこなう。第一次審査合格者はこのうち都合のよい日を選ぶことができる。両方可能な場合は、財団の方で面接日を決定して、連絡する。航空運賃を含め、面接会場への国内交通費および宿泊費は財団が支給する。
- (2) 財団は助成決定者3名以内を選び、本人指定の口座に活動資金を振込む。

## 助成決定者の調査・研究実施と報告提出：

助成決定者は、申請した調査・研究を実施し、その調査・研究と会計報告をまとめ、当財団に2019年2月15日（金曜日）までに提出すること。活動報告は、英文2,000～3,000語程度とする。ただし図表や写真はこの制限外とする。特別な理由が認められる場合を除き、所定の報告書が提出されないときは、財団は助成決定者に研究助成金の返還を求める。

## 表彰：

財団は優秀報告を決定し、賞を与える。受賞者は財団の「年報」用に3000字程度日本語要約を提出すること。

## 注

下中彌三郎（しもなか やさぶろう、1878～1961）

現在の兵庫県篠山市の陶工の家に生れる。父を早く亡くし小学校を3年で中退、苦学して教師となる。1914年に出版社の平凡社を創立、百科事典で成功した。ガンジー（Mahatma Gandhi）に心酔し、パール（Radhabinod Pal）判事やネール（Jawaharlal Nehru）首相らと親交があった。世界連邦運動で活躍し、世界平和アピール七人委員会を立ち上げた。

下中記念財団（1962～）

下中彌三郎の世界平和と万民教育への遺志を継承する財団として設立された。科学技術分野で中等教育に尽力する教師を支援するための事業「下中科学研究助成金」を設け、あわせて箱根にあるパール下中記念館の運営や、映像百科事典事業、インドにおける日本語教育の支援事業などを行なっている。

下中記念財団のインド関連事業（2009～）

下中彌三郎の思いを踏まえて、インドにおける学校での日本語教育の支援をおこなっている。具体的には、学校図書館への日本語の図書の寄贈から始め、2012年には高校の来日修学旅行の支援を実施した。これに続いて2016年度から、在日インド留学生支援上野眞資記念「日本を知ろう」事業を実施している。

上野眞資（うえの まさやす、1949～2013）

熊本市に生まれる。東京大学工学部物理工学科を卒業して、NECに入社。中央研究所でレーザーの研究に従事。工学博士。55歳でNECを退社し、若手研究者を育てる事業の準備をしていたが、64歳で死去。遺族が、遺志を実現させたいと、財団のインド関連事業に多大の寄付をされた。

**[【申請書ダウンロード】](#)** **[【計画書ダウンロード】](#)**